

京都! 花街の文化





公益財団法人

京都伝統伎芸振興財団

●愛称……【おおきに財団】

京都の伝統文化や花街^{かがい}が誇る

伝統伎芸を保存・継承するため、

後継者育成や普及啓発に取り組んでいます。

「おおきに財団」の愛称は、

五花街^{ごかがい}に息づくおもてなしや

感謝の心を表す四つの言葉

「おたがい」「おもいやり」

「きくばりして」「にこやかに」の頭文字から。



おおきに財団HP



こんにちは
舞妓の春香です
まだ出たての
舞妓です

修学旅行の
京都で見かけた
舞妓さんに憧れて
舞妓になりました

これから
京都の花街^{かがい}を
うちが
ご案内させて
いただきます



花街の
風情あふれる
町並みの
特徴である

お茶屋建築

格子

石畳

その伝統を
守り続ける
花街の風景が

訪れる人を
非日常に
いざないます

『仕込み』

おきや
置屋(屋形)に住み込み
1年ほど手伝いや
行儀作法・京の花街言葉
舞や舞踊などを学びます

舞妓になる
までも
『仕込み』(約1年)
『見習い』(約1か月)
と呼ばれる
修行期間が
あんのどす

うちら舞妓は
『芸妓』を目指す
修行期間どす

だらりの帯

お座敷かご

肩と袖に
「縫い上げ」が
あります

見習いの帯は
「半だら」

『見習い』

『店(見世)出し』(舞妓デビュー)が
決まると花街のお姉さん芸妓や
お茶屋の女将さん仲居さんたちに
名前を覚えてもらいながら
お座敷の雰囲気を読んでゆきます

着物の丈が長い
「引きずり」なので
左右の襷(裾)を
とって歩きます

おこぼ

舞妓として
5〜6年修行し
お座敷での
振る舞いや

舞・舞踊
三味線・唄
お囃子・茶道

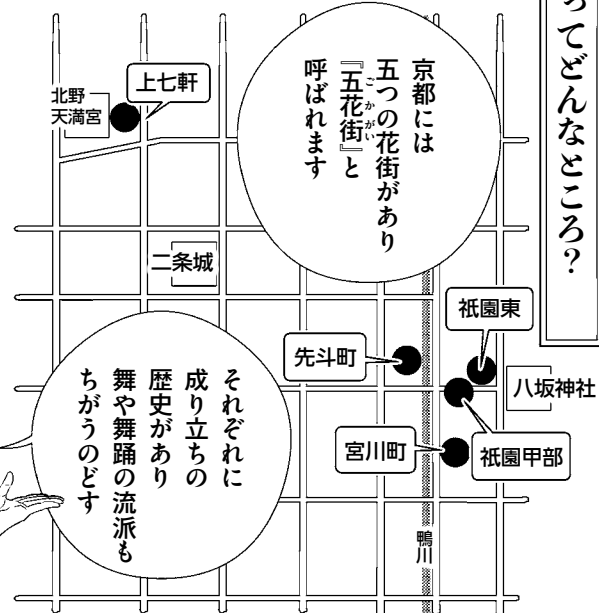
行儀作法などを
認められると

芸妓に
なることが
できます

芸妓に
定年は
ありません

花街ってどんなところ？

- 甲.....祇園甲部(京舞井上流)
- 宮川町(若柳流)
- 先斗町(尾上流)
- 上七軒(花柳流)
- 祇園東(藤間流)



歌舞練場は
春の「都をどり」
秋の「祇園をどり」
などのように
花街の季節を
つげる「をどり」を
披露する会場どす

古くは
100年以上の
歴史がある
歌舞練場も
あんのどす

ここは
『歌舞練場』どす

・祇園甲部歌舞練場
(国登録有形文化財
歴史的風致形成建造物)

他の歌舞練場

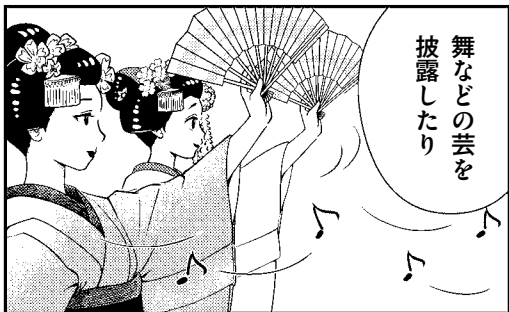
- ・宮川町歌舞練場
- ・先斗町歌舞練場
- ・上七軒歌舞練場
- ・祇園会館

花街のおもてなし文化

うちら
芸妓・舞妓の本分は
芸をみがくこととす
その芸を
お座敷で披露し
お客様に
おもてなしします



舞などの芸を
披露したり



「とらとら」
じゃんけんのような
あそび

お座敷遊びなど
お客様と一緒に
楽しめる伝統の
おもてなしを
させてもてます

チョコ パー

「茶屋」とは
もともと社寺への
参詣や物見遊山に
来た人たちに
お茶や菓子をだした
お店がルーツです

「お茶屋」はお客様に
おもてなしする
ささやかな宴会場で
うちらは

「お座敷」と
呼んでいます

その後座敷で
くつろいでもらい
舞や三味線などで
疲れたお客様を
ねぎらうように
なりました

うちも
姉さんのように
もってお客様に
楽しんでもらえる
ようになりとおすねえ

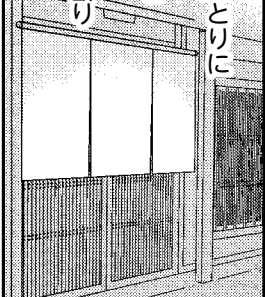
※姉さん→先輩の芸妓・舞妓

※仕出し屋さん→出前料理専門の店

そして
お茶屋の
女将さんは
お客様のことを
知り尽くし

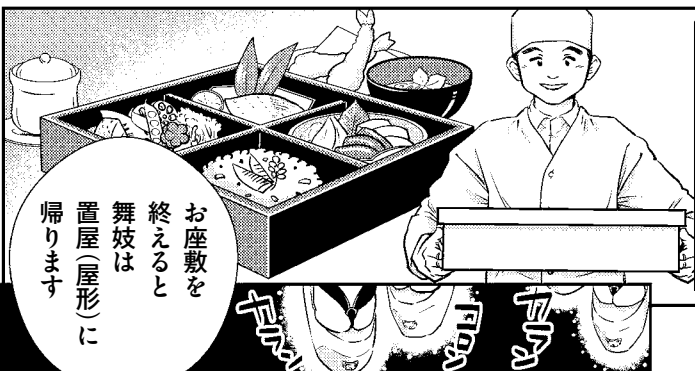
どうしたら
喜んでもらえるかを
常に考えていはる
コンシエルジュ
のような存在です

お客様一人ひとりに
合わせた
おもてなしを
するために
一見さんお断り
なのです



お茶屋さんでは
基本的には
お料理を作らず
仕出し屋さんなどから
お料理をとります

お座敷を
終えたと
舞妓は
置屋(屋形)に
帰ります



置屋というのは
舞妓や仕込みが
生活してる
うちの住まいです

おつかれやす

置屋の
お母さん(女将)は
うちらを一人前の
舞妓にするために
厳しくも親身に
なってくれる
心強い存在です

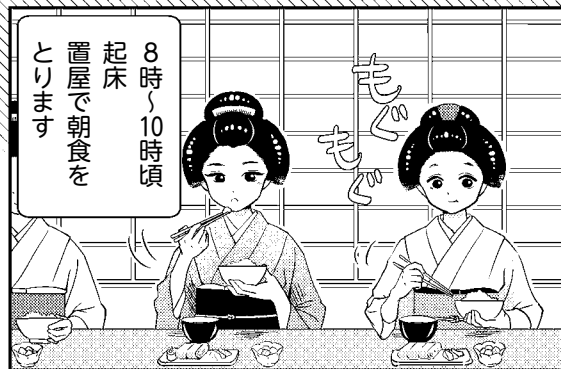
花街の
おもてなしには
芸妓・舞妓以外にも
多くの人々が
関わっています



※一見さん→面識なく初めて訪れた人のこと

舞妓さんの1日

※女紅場→舞妓・芸妓のための教育施設



8時～10時頃
起床
置屋で朝食を
とります

もど
もど

10時～16時は
女紅場やお稽古場で
舞・三味線・唄などの
お稽古です

海外のお客様に
おもてなしするため
英会話のレッスンを
取り入れている
花街もあります



お稽古場では
舞・三味線・お茶の
作法など
お師匠さんから
指導をうけ
芸をみがきます

13時頃に
昼食を
とります

自分の置屋に
帰って食べたり
姉さんの
芸妓さんや
仲の良い舞妓と
外に出かけたり
その日によって
いろいろです
お稽古が
お休みのときは
おのの自由な
過ごします

うちは
お稽古の
おさらい



春香ちゃん
雑貨屋さんに
いこうか

姉さん
うちも
行きたいと
思っ
たんどす！

うちは昨日
遅かったし
お昼寝するわ

うちは読書

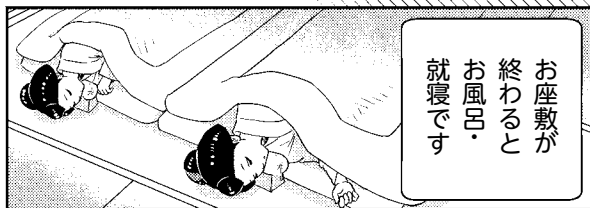


16～18時は
お座敷の準備や
夕食です

うちは
まだまだ
お化粧に
1時間以上
かかって
しまうけれど
姉さんは40分
でお化粧
はります



舞妓の髪型は
自毛で結うため
週に1回は
専門の美容室で
髪を結い直して
もらいます



お座敷が
終わると
お風呂・
就寝です

18時～
お座敷で
お客様の宴席を
盛り上げます

一つのお座敷は
約2～3時間で
いそがしい時には
2～3件のお
座敷を掛け持ち
することもあります



舞妓の帯は
長く重たいので
『男衆さん』や
『着付師さん』が
着付けてくれます
『男衆さん』は着付以外にも
うちの身の回りの
世話をしてくれる
花街で活躍する
男性です



※帯の長さ→一丈六尺～七尺(約5.4m)

花街文化を支える人々

花街文化には
お座敷からは
見えないところで
多くの人が
花街文化を
支えています

舞妓の着物は
『京友禅』

たくさんの
工程を経て
できあがった
反物は

『仕立て』の
職人が着物に
仕立てます



『西陣織』の
だらりの帯は
京都の舞妓だけが
締める帯です

帯のはしに
置屋の紋が
入っているのが
特徴です

花かんざしは
華やかで
細やかな
京都独特の
工芸品です

花かんざし



おこぼ
舞妓の時だけしか
履けない履物

きょうか こしほり
京鹿の子絞
絞り染めの一種で
絹織物に施す模様染め

さらに
芸事に使う
邦楽器など

紹介しきれない
一つ一つの品に
職人さんの
高い技術と思想が
こめられています

※千社札→舞妓さんの名刺

お座敷籠の中も
伝統工芸品が
たくさん
入っています

舞踊の手ぬぐい
舞扇・扇子・千社札 など

舞妓の髪は
『髪結い師』が
結い上げます

時期によって
結い方が
変化するのが
特徴です



割れしのぶ
(舞妓初期)



おぶん
(舞妓3年目くらいから)

◆先弁
えりか
衿替えの前
◆奴島田
やつこしまだ
正月や八朔
などの正装用
◆勝山
かつやま
祇園祭の時

舞妓の姿は
伝統工芸の
ミュージアム

長い歴史の中で
培われた
京都の伝統の技に
支えられています



ここまで
見とくれやして
おおきに

京都の
花街について
お伝えできて
とても
うれしおす

現代の
芸妓・舞妓は
お座敷以外にも
国内外での
式典などで

舞を披露したり
観光PRなどを
おこなっています

そしてこれからも
芸をみがき
おもてなしの心を
体現していきます

うちは舞妓さんに
あこがれて
花街に入ったん
どすけど
いまは芸妓さんに
あこがれてます

舞妓から
芸妓になることを
『衿替え』といい

舞妓としての
最後の数日間に
『先筈』という
髪型を結います

そして
「黒髪」
という舞を
舞うのが
習わしです

芸妓になると
『島田』という
髪型のかつらを
つけます

舞妓の時には
赤かった衿が
白い衿にかわり

着物の色や
柄ゆきも
大人っぽい
装いになります

芸妓は
舞妓のように
置屋に頼れず
自分の芸と才能で
自前（本立ち）に
ならなければ
なりません

姉さん
衿替え
おめでとう
さんどす！

春香ちゃん
おおきに

これからは
芸妓として
一所懸命
がんばるし
春香ちゃんも
がんばってや

はい！

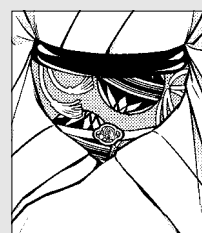
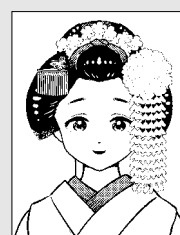
いつかうちも
姉さんのような
立派な芸妓さん
になりたいです！
なりとおす！

◆舞妓の身支度



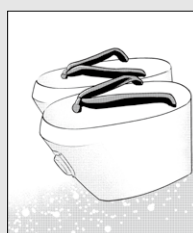
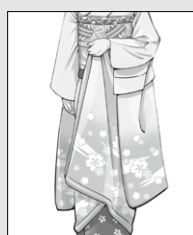
① 花簪／口紅
月代わりに、季節の花を取り入れたかんざし。舞妓になったばかりの間は下唇だけ。

② ぽつちり
置屋で代々受け継がれる高価な帯留め。



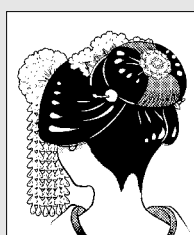
③ 裾引
お座敷や舞台上がる時の丈の長い着物。

④ おごぼ
履物の一種。



⑤ 割れしのぶ
年若い舞妓さんの髪型。

⑥ だらりの帯
長く後ろに帯を垂れ下げる結び方で、歩くとき揺ら揺らとゆれる。



◆花街の年中行事



● 1月 睦月
● 主な花簪……〔松竹梅〕〔松と鶴〕
● 始業式
五花街の仕事始めに当たる「始業式」。

● 2月 如月
● 主な花簪……〔梅〕
● 節分・お化け
節分の日、祇園甲部、宮川町、先斗町、祇園東は八坂神社で上七軒は北野天満宮で舞の奉納や豆まきを行い、鬼を払います。

● 梅花祭
学園の神様として知られる北野天満宮では、2月25日に「梅花祭」が開かれます。梅花祭では、芸妓舞妓が参拝者にお茶を振る舞う「梅花祭野点大茶会」が催され、見ごろを迎えた梅にさらなる彩りを添えます。

● 3月 弥生
● 主な花簪……〔菜の花〕〔水仙〕
● 北野をどり
春のをどりの先陣飾る、上七軒の「北野をどり」。昭和27年、北野天満宮で50年に一度行われる大馬燈祭に奉祝し上演したのが始まりです。

● 4月 卯月
● 主な花簪……〔桜〕
● 都をどり
祇園甲部の舞踊公演。京都の春の風物詩として名高い「都をどり」は明治5年、京都博覧会を訪れた客をもてなすために始まりました。

● 京おどろ
昭和25年に始まった、宮川町の「京おどり」。中でもフィナーレの「宮川音頭」では芸妓舞妓が総出演し、一糸乱れることなく群れ舞う姿は圧巻です。

● 平安神宮例大祭奉納舞踊
春爛漫の4月16日に挙行される、平安神宮の例大祭。五花街の舞妓が奉納舞を披露します。

● 5月 皐月
● 主な花簪……〔菖蒲〕〔藤〕
● 鴨川をどり
先斗町の舞踊公演で、初演は明治5年。戦前には喜劇王のチャール・チャップリン・フランスの芸術家ジャン・コクトーなど多くの著名人が観劇しました。

● 観亀神社宵宮祭
祭は毎年5月14日に行われ、その宵宮には祇園東の芸妓舞妓が勢ぞろい。

● 6月 水無月
● 主な花簪……〔紫陽花〕〔柳〕
● 京都五花街合同公演 都の賑い
平安建都1200年を祝し、平成6年にお目見えした都の賑い。祇園甲部、宮川町、先斗町、上七軒、祇園東の芸妓舞妓が一堂に会する唯一の舞踊公演は毎年満員御礼の大盛況を見せ、今や京都の初夏の風物詩となっています。

● 7月 文月
● 主な花簪……〔団扇〕〔祇園祭〕
● 祇園祭
24日の花傘巡行には祇園甲部と宮川町、先斗町と祇園東の芸妓舞妓が隔年交替で参加。祭に華を添えた後は八坂神社で奉納舞を披露します。

● 8月 葉月
● 主な花簪……〔すずき〕〔朝顔〕
● 八朔
旧暦8月1日の「八朔」は、かつてこの日に稲穂の神に豊作を祈ったことから「田の美の節」とも呼ばれていました。田の美は「類み」に通じるため、五花街では八朔にはお世話になっている人に挨拶回りをする習慣が今なお残っています。

● 9月 長月
● 主な花簪……〔栴檀〕
● お稽古
9月の声を聞くと五花街の芸妓舞妓は、ひととき厳しい稽古に励みます。それは、10月に祇園甲部で「温習会」、宮川町で「みずあき」、先斗町で「水明会」、上七軒で「寿会」、そして11月に祇園東で「祇園をどり」が開かれるためです。

● 10月 神無月
● 主な花簪……〔菊〕
● 時代祭
明治28年、平安神宮の創建と平安遷都1100年記念祭の奉祝行事として始められた「時代祭」。五花街の芸妓舞妓は毎年交替で参加し、清少納言や紫式部、巴御前、小野小町などに扮して祭を盛り上げます。

● 11月 霜月
● 主な花簪……〔紅葉〕
● 祇園をどり
秋たけなわの古都を彩る「祇園をどり」は昭和27年から続く、祇園東の舞踊公演。

● 祇園小唄祭
平成15年から毎年11月23日におおきに財団と京都花街組合連合会が円山公園で開催している「祇園小唄祭」は、数多の舞妓を育てた唄の踊り行事です。

● 12月 師走
● 主な花簪……〔まねき〕
● 献茶祭
豊臣秀吉が催した北野大茶湯に由来する北野天満宮の神事「献茶祭」が毎年12月1日に行われます。上七軒歌舞練場では芸妓舞妓が奉仕し、お点前を披露します。

● 顔見世総見
京都の師走の風物詩として、歌舞伎ファンならずとも注目の南座吉例顔見世興行。五花街の芸妓舞妓が芸事の勉強を兼ねて舞台を経験します。桟敷席に色どりの衣裳をまとった芸妓舞妓がすうりと並ぶ姿はまさに圧巻です。

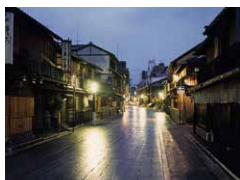
● 事始め
12月13日、京都ならではのしきたりにならない、五花街でもこの日を一年の区切りとして正月の支度を開始。

京都の 五花街



【祇園甲部】

八坂神社の門前町として栄え、
江戸時代の茶屋の面影を残す
風情ある町並みが見られます。



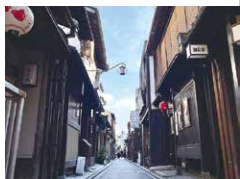
【宮川町】

江戸時代には
出雲阿国の歌舞伎が行われ、
芝居町や茶屋町として
発展してきました。



【先斗町】

高瀬舟の船頭や
旅客目当ての水茶屋が
お茶屋へと発展し、
幕末から現在のような
花街となってきました。



【上七軒】

室町時代に、
北野天満宮を建てた残りの木で
七軒の茶屋を建てたことが
起源とされています。



【祇園東】

八坂神社の門前町として
江戸時代から栄え、
1881年に
祇園甲部から分離独立し、
今に至ります。



京都・花街の文化

2022年1月 第1版 第1刷発行

発行：公益財団法人 京都伝統伎芸振興財団（おおきに財団）

〒605-0074 京都市東山区祇園町南側 570-1 TEL：075-561-3901 MAIL：ookinizaidan@juno.ocn.ne.jp

作画：濱田麻衣子／編集：京都精華大学（京都国際マンガミュージアム）事業推進室